

都道府県・ 指定都市番号	27	都道府県・ 指定都市名	大阪府 豊中市	研究課題番号・校種名	3 (3) 小学校
				領域名	論理的思考
研究課題	学校全体で取り組む課題 (3) 社会の中で活用される論理的思考やそれらを表現する力を学校全体で育成するための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
学校名 (児童・生徒数)	<small>とよなかしりつみのわしょうがっこう</small> 豊中市立箕輪小学校 (315人)				
所在地 (電話番号)	大阪府豊中市箕輪 1-1-1 (06-6843-3344)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.toyonaka-osa.ed.jp/cms/minowa/				
研究のキーワード	筋道立てて説明する力 単元構成と教師の働きかけの工夫 考えの形成・深化				
研究結果のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子供たちに身に付けさせるべき資質・能力と論理的思考力の定義を明らかにすることで、学習過程と指導方法を見直し、改善することができた。 ○ 単元構成と教師の働きかけの工夫を行うことで、筋道を立てて説明する子供の姿が見られた。 ○ 考えを深化させるための手立てに更なる改善が必要である。 				

1 研究主題等

(1) 研究主題

論理的思考力を働かせ、自分の考えを深め・広げることのできる子供の育成
～単元構成と教師の働きかけの工夫を通して～

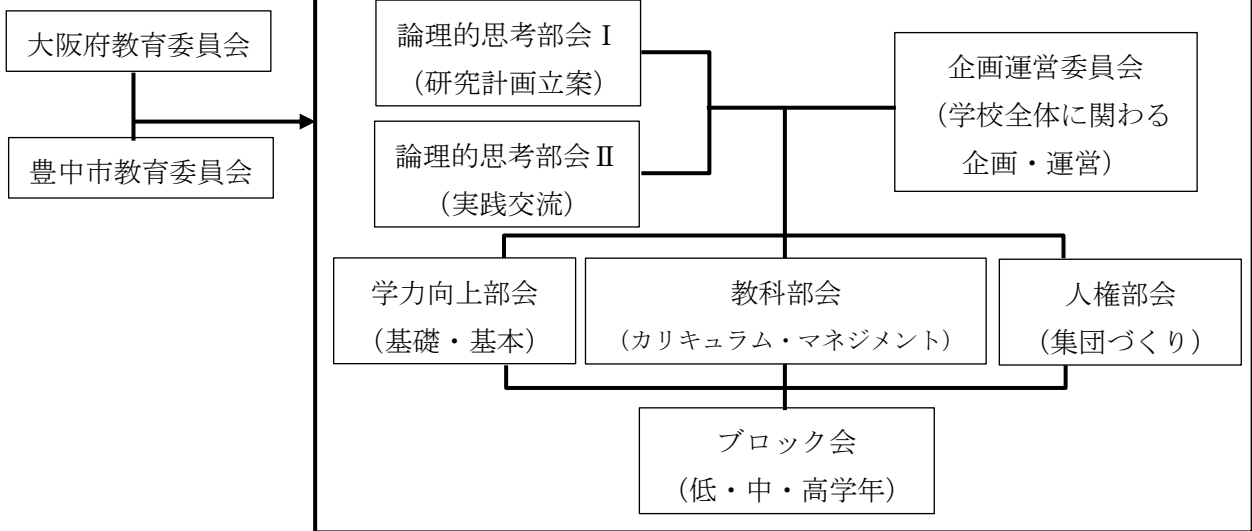
(2) 研究主題設定の理由

中央教育審議会答申においては、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要であることや、判断の根拠や理由を示しながら、自分の考えを述べたり、実験結果を分析して解釈・考察し説明したりすることなどについて課題があることを指摘している。

本校の実態を見ると、自分の考えを理由や根拠を明確にしながら話すこと、多様な考えを受け止めながら友達の話聞くことに課題がある。そのような子供たちに、理由や根拠を明確にしながら話す力や、大切なことは何かを考えながら聞く力を身に付けさせ、集団で考えることのよさや価値を味わわせ、話し合うことで考えが深まり・広がることに気付かせたい、そのためには、論理的思考力の育成が不可欠であると考えた。

そこで、論理的思考力を「自分の考えを、根拠をもち、筋道立てて説明する力」と定義した。筋道立てて説明するには、順序立てて考えたり、比較、分類して考えたり、関係付けて考えたり、帰納、演繹的に考える必要がある。意図的に順序立てたり、比較したり、関係付けたりしながら説明する力が付けば、聞く場面でも、比較したり、関係付けたりしながら聞くことができると考えたからである。また、その力は、自分の考えを伝え合ったり、聞き合ったりする場で生かされ、自分の考えを深め・広げられることになると考え、研究主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全体計画と年間計画の確認及び校内体制の整備 (4月) ○ 研究の方向性の立案と共通理解 (4月) ○ 児童の意識調査 (7・12・3月) ○ 研究の成果と課題の整理 (7・12月) ○ 教職員研修会 (7・8月) ○ 校内研究授業 (6・10月) ○ 公開研究授業 (11月) ○ 教育課程調査官による訪問指導 (10月) ○ 大阪府教育委員会指導主事による訪問指導 (11月) ○ 講師招聘による師範授業 (11月) ○ 一年次研究のまとめ・次年度にむけての校内体制の整備と教育課程の編成 (3月)
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全体計画と年間計画の確認及び校内体制の整備 (4月) ○ 研究の方向性の立案と共通理解 (4月) ○ 校内研究授業 (6・10・1・2月) ○ 教育課程調査官による訪問指導 (6月) ○ 講師招聘による師範授業 (7月) ○ 児童の意識調査 (7・12・3月) ○ 研究の成果と課題の整理 (7・12月) ○ 教職員研修会 (7・8・12月) ○ 授業検討会 (7・8・11・1月) ○ 公開研究発表会 (12月) ○ 二年次研究のまとめ・次年度に向けての校内体制の整備と教育課程の編成 (3月)

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

① 単元構成の工夫

② 教師の働きかけの工夫

- 子供が自ら問いをもつことができる教材の提示方法の工夫。
- 発問の工夫
- 話し合う場の設定

(2) 具体的な研究活動

① 単元構成の工夫

身に付けさせたい論理的思考力の明確化

順序立てたり、比較、分類したり、帰納・演繹的に説明したりするための語句を、思考に関わる語句と位置付け、教材の特性を検討しながら、単元の中で、身に付けさせたい論理的思考力を明確にして取り組んだ。

論理的思考力を育む場面の位置付け

論理的思考力を育むことができる場面はどこかを見出し、単元を構成することを意識してきた。論理的思考力を育むために、その前段階でどのような学習を積むのか、単元の終わりには、子供たちが何を学んだのか、どのようなことができるようになったのか、自覚できる場面を設定するといった、単元のつながりを意識した学習活動を設定した。

② 教師の働きかけの工夫

教材提示の工夫

思考のずれを生んだり、子供たちが「間違っている」、「おかしい」、「どうしてだろう」と思ったりするような教材の提示方法を設定した。それにより、子供たちが自ら「問い」をもったり、「やってみよう」、「話したい」と主体的に学習に取り組んだりできるようにしてきた。

発問の工夫

発問を、主発問の設定、授業コーディネート、評価・価値付けすることを設定し、取り組んできた。

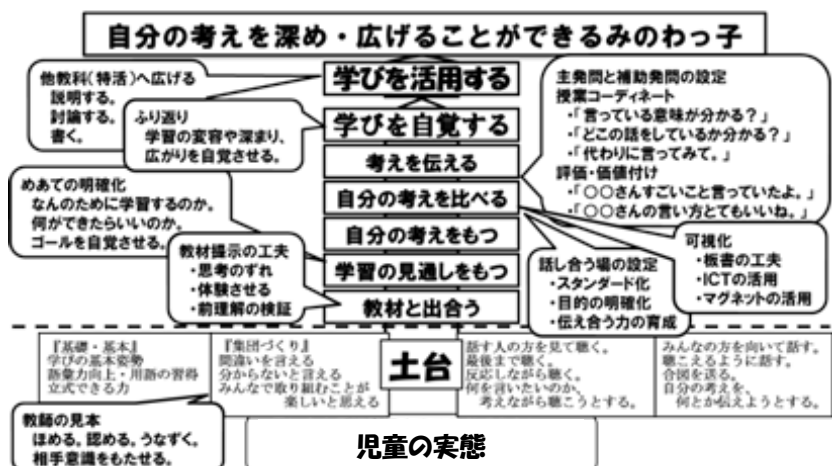
是か非かを問う発問や、二者択一になるような発問など、子供たちが意見を持ちやすいような発問の設定をした。授業のねらいに迫るための核となる主発問を設定すること、それを支える補助発問を設定することによって、効果的にねらいに迫ることができる発問づくりに取り組んできた。

教師が子供の意見を聞き返したり、もう一度言わせたりする、授業コーディネートによって、子供と子供の意見をつなげたり、何の話をしているのかを明確にしたりしながら学習を進められるようにしてきた。また、思考に関わる語句を活用しながら説明している子供を評価・価値付けすることによって、自然に思考に関わる語句を活用することができるように取り組んだ。

話し合う場の設定

話し合う場の設定では、ホワイトボードやICTを活用しながら班で話し合ったり、意見を深めるときは三人組、教え合いをするときは五人組で話し合うなど、必要に応じて人数を変えながら話し合ったりすることで、「分かった」、「考えが変わった」と実感できるようにしてきた。また、分からない子供は教えてもらう、分かる子供は誰もが分かる説明ができていないか確認する、友達に伝え合い聞き合いながら考えを深める、といった話し合う目的を教師も子供も共通理解することで、子供同士で話し合えるようにした。

『単元構成と教師の働きかけ』構成図



(3) PDCAサイクルへの取組について

児童質問紙の調査において『何が大事か注意しながら友達の意見を聞く』、『自分の考えを順序良く説明できる』の2点を重点項目として取り組んできた。

『聞く』項目においては、昨年度の3月と比較し、『当てはまる』という最も肯定的な意見が10ポイント上昇し、大きな成果が見られた。『説明する』の項目においては、『当てはまる』が1ポイント減少。『どちらかといえば当てはまる』が3ポイント上昇と成果が得られなかった。

説明することが難しいと感じている子供が多いことから、話し合う必要感を感じられるような教材提示の工夫や、子供一人一人が話すことができる場を設定する必要がある。教師の働きかけの工夫の中でも、教材提示の工夫と話し合う場の設定に重点をおいて取り組んでいく。

3 研究の成果と課題 (○成果●課題)

- 単元を通しての授業の在り方を見直すことで、本時の中で身に付けさせたい力とそのための手立てが明確になり、各教科で研究の方向性が統一されたものになった。
- 各ブロックでの目指す資質・能力を明確にすることができた。「筋道立てて説明する力」を低学年では順序立てること、中学年では根拠を明確にすること、高学年では帰納的に考えることと、系統立てたものを設定することができた。
- 発問の工夫によって、子供たちは自分の意見を持ち、立ち位置を明確にしながら学習に取り組むことができた。また、是か非かを問う発問や二者択一になるような発問は、子供たちが理由を明確にしながら話し合うことに効果的だった。評価・価値付けにおいては、教師が褒め、認めていくことで、意識的に思考に関わる語句を活用する姿が見られ、論理的に思考している力を発揮することができた。
- 本時の中での振り返り、単元を通しての振り返りなど、観点を明確にしながら振り返る場面を設定することによって、子供の思考の変化が明確になり、考えの深まりや広がりも子供も認識することができた。
- 教材提示の工夫において、子供たちが問いを持ったり、学ぶ必然性を感じたりできるような提示の工夫に課題が残った。
- 話し合いの場の設定の中で、話し合いの進め方のモデル化を図ることに課題が残った。いい話し合い方を価値づけし、他教科にも広げていくこと、聞き手の力の育成として、問い返す力、共感する力の育成に取り組んでいく必要がある。
- 「何が分かったのか」、「友達は何を言おうとしているのか」再話させる場を設定することに課題が残った。考えを深め・広げるための手立ての工夫について更なる改善が必要である。
- 思考に関わる語句を活用しながら表現できるようになってきたが、複数の情報を関連付けることに課題が残った。必要な情報を取り出す、取り出した情報を分析、統合する、情報を操作し、加工するといったプロセスを辿った学習指導の在り方を検討する必要がある。

4 今後の取組

- ・今年度実施した手立てとそれにより身に付いた力を整理することで、論理的に思考しながら自分の考えを深め・広げることのできる子供を育成する指導の在り方の改善を図る。
- ・論理的に思考する力を育成するための系統立てた学習指導の在り方とカリキュラムの編成を図る。